

## 第 2 回生物多様性保全検討部会の主な御意見と今後の対応等について

	委員からの御意見	今後の対応
1	<b>第 1 回部会の御意見</b> ・京都市生物多様性プラン（仮称）では，社寺林の変遷と生態を明らかにし，モニタリングを行い，結果のとりまとめをする必要がある。	京都市生物多様性プラン（仮称）に，社寺林の変遷や生態，社寺林の果たしてきた役割等について記載。また，具体的な取組として，市民活動団体のフィールドとなっている場所を拠点とした定期的なモニタリングを実施し，その結果をとりまとめる取組を検討していく。
2	・京都には，生物多様性の恵みを生業の素としている事業者も多いため，「事業活動が生物多様性と関連していること」を見える化し，人づくり等の普及啓発活動につなげる。	今後の普及啓発の取組において，企業の事業活動と生物多様性の関係性に焦点をあて，企業の存続に生物多様性の保全が不可欠であることを示していく。
3	・京の食文化が関連している事例を市民に周知し，人づくり等の普及啓発活動につなげる。	今後の普及啓発の取組において，京野菜等の身近な食材を取り上げ，生物多様性との関わりや危機的な状況について知っていただき，保全のための行動を起こすことを呼びかけていく。
4	<b>京都市生物多様性プラン（仮称）「背景～課題」</b> <u>3. 2 「京都の生物多様性」について</u> ・国・府・市の天然記念物の情報を整理。 ・日常(歳時記)の生きものの情報を追記。 ・食生活にまつわる情報を追記。 ・特徴的な自然を生かす日常的な自然の情報を追記。 ・オオサンショウウオやヌートリアなどの外来種情報を追記 ・近代建築でありながらキマダラルリツバメのすみかを提供し，琵琶湖では見られなくなったイチモンジタナゴを平安神宮神苑の池に運ぶ等，貴重な役割を果たしてきた琵琶湖疏水の情報を追記。 ・近代以降の都市の成り立ち等を追記。 ・具体的な生き物の情報を追記。 ・貴重な自然（久多，花背，樫原，大悲山等）の情報を追記。 ・守るべき自然（深泥池，巨椋池等）を追記。	京都市生物多様性プラン（仮称）に反映 資料 3 参照 3. 2 「京都の生物多様性」

	委員からの御意見	今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三山の自然の情報を追記。</li> <li>・オグラコウホネ等の情報を追記。</li> </ul>	
5	<p><u>3. 3 「京都市の伝統文化と生物多様性の関わり」</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(1)「庭園と生物多様性」の部分に寺社仏閣も追記</li> <li>・花背・広河原の松上げや藤蔓利用について追記</li> </ul> <p><u>3. 4 「京都市の地域区分の現状と課題」</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの区域のつながりについて追記。</li> <li>・エコロジカルネットワークの視点を追記。</li> </ul> <p><u>3. 6 「京都市の自然環境に係る現状と課題のまとめ」</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国の危機1～4別に課題を分析。</li> <li>・第三の危機として、外来種問題を整理。</li> <li>・自然との付き合い方の変化が課題であることを追記。</li> </ul> <p>資料編</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・減少している等と表現している部分については、その傾向（トレンド）がわかるデータを追記すること。</li> </ul>	<p>京都市生物多様性プラン（仮称）に反映 資料3 参照</p> <p>3. 3 「京都市の伝統・文化・暮らしと生物多様性の関わり」</p> <p>3. 2 「京都市の生物多様性」</p> <p>3章 3. 1～3. 3 参照</p>
6	<p><u>全体</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都ジュニア検定などを参考に、イラスト等を入れて、分かりやすい内容にしてほしい。</li> </ul>	<p>イラストや写真等を用い、分かりやすさを重視しプランを作成する。</p>
7	<p><b>京都市生物多様性プラン（仮称）の基本的事項</b></p> <p><u>2 対象とする地域（2）地域区分</u>を修正</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「北山から山城盆地の地域特性を再認識し、京都市域の自然環境を、生物の生息環境やその環境が持つ特徴・機能をもとに、「奥山・里山」、「農耕地」、「都市緑地」、「水域」の4つに分類する。」</li> </ul> <p><u>3 目標</u>を修正</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・錦の御旗となる、格調高い長期目標が必要。</li> </ul>	<p>京都市生物多様性プラン（仮称）に反映 資料3 参照</p> <p>2. 3 「基本的事項」参照</p> <p>4. 1 「目標」参照</p>

	委員からの御意見	今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際目標である「愛知ターゲット」は、世界のスタンダード（水準）である。京都は国際的にも注目される都市であり、高らかに宣言するような野心的な目標を打ち出す必要がある。</li> <li>4 基本理念を修正 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生物多様性の保全・再生と持続的利用」に修正</li> </ul> </li> <li>5 コンセプトを「施策の柱」に修正 <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標と施策の柱を対応させ整理。</li> <li>・短期目標と紐付けし、順番を変更。</li> <li>・『生物多様性保全に向けた「企業の社会貢献活動の拡大」の促進』を『企業の事業活動全体及び社会貢献活動を通じた生物多様性保全の促進』に修正。（会社の厚生事業等に位置付けて、社員の健康増進やレクリエーションにするような仕掛けが必要。）</li> <li>・「ナラ枯れ等具体的な被害への対応」を「生物多様性を脅かす諸問題への対応」に修正。</li> <li>・生きものの生息環境の保全・利用の観点を追記。</li> </ul> </li> </ul>	<p>4. 2 「基本理念」参照</p> <p>資料4 参照</p>
8	<p><b>その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・里山ゾーンを整備する予定の動物園と連携してはどうか。</li> </ul>	<p>庁内会議を通じ、関係部署と連携し、動物園の取組を本プランに位置付けていく。</p>
9	<p>情報収集・発信や、人と人を結びつける場として、自然史博物館のようなセンターや、ウェブサイトを通じた情報の発信が必要である。</p>	<p>京エコロジーセンターや動物園等の既存施設と連携し、環境学習や普及啓発の推進を図る。</p> <p>また、京都の伝統文化と生態系との関わりやホットスポット等、生物多様性に関する情報の収集・発信をはじめ、保全活動を行う企業、団体と活動に興味がある人をつなぐ、ポータルサイトの構築を検討していく。</p>